

# 教育のフロンティア

NO.271  
2022.5-6月

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www.hokjioka.net> E-mail : [codmokan@agate.plala.or.jp](mailto:codmokan@agate.plala.or.jp)

支援会員・寄金 3,000円 (年額)  
\*会員には、本通信を配布します。



## <5/19・「農業実習」>

恒例の余市教育福祉村での農業が始まりました。前週に中学生グループが土耕し・施肥・畝たてを、翌週は小中学生がバス仕立てて野菜+花の苗植えを実施。皆がんばりました。午後は海に立寄り水とたわむれ…(←農場の丘の上での一こま)

## INDEX

- P1: 巻頭言
- P2: ヒューマントラスト/設立運動
- p3: 講座進行、会費納入他
- p4-5: NPO 総会/決算方針
- p6-7: 1 学期進行、農業
- p8: エッセー、カレンダー、後記  
[チラシ、案内他]

## 「ロシアのウクライナ侵攻から3ヶ月余り」

～ 第二次世界大戦の体験から思う ～

認定NPO法人・監事 廿日岩 ミサコ

2.26 事件の18日前、東京市にて産声、昭和16年5歳の時に結核に感染していた父と死別。母と二人の姉共々、庄内平野の片隅で農業を営んでいた母の実家に帰る。翌年4月、国民学校初等科に入学、4年生の夏に終戦を迎えました。

戦争体験と言っても、田舎での生活ゆえラジオも新聞もなく、戦争の理解も十分でない年齢。大人に守られ指示に従って行動するという日常でしたので、逃げ惑うような事はありませんでした。ただ86歳の今でも、あの戦争がなかったらの思い、幼かったなりの数々の記憶は消えていません。

父親が戦死か病死かでの差別、母が保健婦として町役場の職員だったので、警戒警報が出ると休日や昼夜を問わず災害本部へ出向き、警報解除まで帰宅しない不安や寂しさ、守ってくれる大人たちの苦悩等々。

先日、本NPO法人と北海道地域・自治体問題研究所共催のシリーズ講座第3回に参加し、道被爆者協会事務局の北明先生の講演を聞きました。広島・長崎での被爆者が、77年後になる今でも人権無視の生活を強いられている事、ロシアの侵攻で話題になっている核兵器の事などを学び、命を奪い合う戦争の悲惨さ、むごさが毎日テレビに映し出される現況に改めて「平和」大切さを実感。

ウクライナ支援、改憲反対、老体故に何も出来ないかと嘆かず、「三人寄れば文殊の知恵」に倣って残された時間を有効に、大切に生きていかねばと思っています。

[注:筆者は本認定NPO法人役員。かつてコープさっぽろの理事時代に接点を持ち、約25年の縁を繋いでいます]